

2017年8月吉日

各位

株式会社ベントレー・システムズ

## 2017 CONNECTION セミナー横浜

### リアリティモデリングとプラントライフサイクル全般に関する 最新ソリューションとユーザー事例をご紹介

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。この度「CONNECTION セミナー横浜」を開催することとなりましたのでご案内申し上げます。今回のセミナーでは、午前は、写真から3Dモデルを作成するリアリティモデリングソリューションや、ProjectWiseによるクラウドを利用したデータ管理を、午後はプラントのライフサイクル全般に関する最新ソリューションをご紹介致します。さらにユーザー様の事例紹介も予定しています。つきましては、ぜひ皆様のご参加を賜りたく、ご参加をお待ちしております。

敬具

#### 記

- ◆ 日時：2017年9月6日(水)10:00 - 17:10
  - ◆ 主催：株式会社ベントレー・システムズ
  - ◆ 参加費：無料
  - ◆ 会場：横浜ベイホテル東急  
クイーンズ グランド ボールルーム B  
〒220-8543 横浜市西区みなとみらい2-3-7
- アクセス**  
みなとみらい線みなとみらい駅より徒歩5分  
JR京浜東北線・根岸線・横浜線・市営地下鉄桜木町駅より徒歩10分  
<https://ybht.co.jp/access/>
- ◆ お申込み：webサイトよりお申込みください。  
事前登録がない方は、会場で受付できません。  
1社から複数名でご参加の場合も、全員事前にご登録ください。代理でご参加の場合も事前にご登録ください。  
<https://pages.info.bentley.com/yokohama2017/>
  - ◆ お問い合わせ：株式会社ベントレー・システムズ  
担当：大山  
TEL: 03-5992-7770  
[sanae.oyama@bentley.com](mailto:sanae.oyama@bentley.com)



ご案内図



お申込みと詳細はこちら

## デジタル設計とリアリティモデリングのコンバージェンス

## 基調講演: Going Digital

10:00 - 10:25

世界中の Bentley ユーザーのプロジェクトで利用されている新しい技術の統合と、ベストプラクティスについてご説明します。世界の最新の動向をご紹介します、それらがユーザーの皆様にとってどのような意味を持つのか探ります。Bentley の接続されたデータ環境を介して、前例のない BIM の進化がどのように可能となり、コンストラクショニアリングとインスペクショニアリングを実現するのかをご覧ください。

株式会社ベントレー・システムズ 副社長 津高 浩

## 主流化するリアリティモデリング

10:25 - 10:45

デジタルモデリングと現場の状況の正確なバーチャル表現の統合により、設計上の最適な決定をどのように行うかをご紹介します。Bentley がリアリティモデリングと設計モデリングのアプリケーションを通じてバーチャルリアリティと現実をどのように融合させているかをご覧ください。

株式会社ベントレー・システムズ チャンネルマネージャー 原田 学

## ContextCapture 新バージョンのご紹介

10:45 - 11:15

写真から現況の 3D モデルを生成するソフトウェア「ContextCapture」の新バージョンをデモを交えてご紹介します。測量、プラント、エンジニアリング、建設、土木、映像など、多岐に渡る分野で活用されている 3D モデルの具体的事例をぜひご参考ください。

株式会社みるくる 田村 直子

## 休憩

11:15 - 11:30

## MicroStation CONNECT Edition

11:30 - 11:50

MicroStation CONNECT Edition の柔軟性と堅牢性が、プロジェクトチームの各メンバーに、正確な作業のための適切なアプリケーションを提供する方法をご紹介します。

株式会社ベントレー・システムズ シニアコンサルタント 田端 幹彦

## Bentley ソリューションにおける IIoT の取り組み

11:50 - 12:10

Bentley のソフトウェアアプリケーションは、インフラのプロジェクトライフサイクル全体を拡大する完全なソリューションにより、複数の分野にまたがるワークフローを合理化、自動化し、現況をキャプチャする技術を活用して包括的なモデリング環境を作成することを可能にします。AssetWise と ProjectWise の CONNECT Edition がどのように接続されたデータ環境を実現するか理解することで、共通のデータ環境を共有して、CAPEX 中に作成されたデジタルエンジニアリングモデルの BIM の潜在力を完全に実現し、OPEX ライフサイクル全体にわたって継続的な利益を得ることができます。

株式会社ベントレー・システムズ ALIMビジネスグループ部長 土田 健一

## コンストラクショニアリング

12:10 - 12:30

トプコンの米国子会社トプコンポジショニンググループと Bentley Systems 社は、2016 年 11 月ロンドンでの Year in Infrastructure 2016 Conference にて、『コンストラクショニアリング』をキーワードにした新しい建設ワークフローを提唱しました。これは、施工とエンジニアリングを融合することによって工事全体の生産性を向上させるという考え方です。日本での国土交通省が提唱・推進する『i-construction』にも相通じる取り組みといえます。本講演では、『コンストラクショニング』のビジョンを共有するとともに、当社が日本国内で推進している i-construction 事業について紹介します。

株式会社トプコン 営業本部 スマートインフラ マーケティング部 課長 富田 克則 様

昼食 午前と午後の両セッションにご参加の方に昼食をご用意します。

12:30 - 13:30

### プラントと重工業の統合プロジェクトの実施

13:30 - 14:20

この 2 年ほどの間に、石油、ガス、化学業界は、収益の大幅な変化、生産需要の減少、資産の老朽化、CO2 排出量の削減に対する圧力の増大、世界的な経済成長の減速など、これまでにない市場とビジネスの課題に直面しました。これにより、将来の新規設備投資が大幅に減少する一方で、これらの課題に真正面から取り組むための新たなアプローチ、特に既存の老朽化資産の管理と最適化につながるデジタル技術革新の実装を活用する方法に対する認識が高まっています。今回は、Bentley がこれらの課題に対処しプロジェクトのプロセスを合理化するために市場に投入している最新技術についてご覧頂き、ベストプラクティスと参考事例をご紹介します。

Tobias Pantwich, Technical Director - Integrated Lifecycle Solutions, Success Solutions, Bentley Systems

### 統合プロジェクトの実施:接続されたデータ環境

14:20 - 15:05

AssetWise と ProjectWise の CONNECT Edition は、接続されたデータ環境を提供し共有し、CAPEX(施設建設)で作成されたデジタルエンジニアリングモデルの BIM 潜在力を完全に実現する共通のデータ環境をアップグレードし、OPEX(運用)時のライフサイクル全体にわたって継続的な利益をもたらします。「デジタル DNA」が重要な役割を果たすため、デジタルエンジニアリングモデルの目的や継続性を維持するためにインフラストラクチャ資産のライフサイクル全体にわたって CAPEX プロジェクトが繰り返し必要となるため、接続されたデータ環境はインフラストラクチャの進歩にとって不可欠です。このセッションでは、資産パフォーマンスを向上させる Bentley の最新技術を紹介します。リアリティモデリングによる既存の資産のデジタルエンジニアリングモデルの実現から、ProjectWise のプロジェクトライフサイクル全体で共有および管理され、他のシステムのモデルや情報と統合され、建設やオペレーションへの移行をサポートします。

株式会社ベントレー・システムズ シニアアプリケーションエンジニア 松浦 左津志

### 質疑応答

15:05 - 15:15

休憩

15:15 - 15:30

### 複数の分野におけるオプションニングとコラボレーションの進展

15:30 - 16:15

2016 Year in Infrastructure カンファレンスで発表された製品イノベーションのうち、複数の分野のコラボレーションの課題に取り組んだ 3 つの項目。

- スケーラビリティ、同期、STAAD または SACS デザインモデルの代わるクラウドベースの解析と、比較やシナリオを伝えるための強力な Web ビジュアルイゼーション機能を備えたシナリオサービス
  - SACS と AutoPIPE の統合により、静的および動的環境負荷を受けたより正確な統合された構造と配管応力解析モデルを提供
  - プラント、ビルディング、および構造設計分野全体の調整を強化する OpenPlant の革新
- このセッションでは、最近発表された新しい機能のライブデモンストレーションをご紹介します。

Tobias Pantwich, Technical Director - Integrated Lifecycle Solutions, Success Solutions, Bentley Systems

Bitna Seo, Product Specialist Offshore, Bentley Systems

Muhammad Salheen, Senior Application Engineer PLANT, Bentley Systems

### AutoPIPE、STAAD.Pro ベストプラクティス

16:15 - 17:00

#### 新たな都市開発への挑戦～STAAD.Pro の歩む道～

2020 年の東京オリンピック開催を目指して首都圏各地で再開発プロジェクトが遂行されている。当社では、長年にわたり蓄積してきた研究成果の粋を集めて STAAD.Pro を建築分野に活用することにより建築エンジニアの視点から都市開発の道を広げてきている。今回は、下記のトピックスをハイライトして講演する。この講演が新たな都市開発の一助となるように参加者の皆様と一緒に考える契機としたい。

1. 設計施工段階で配慮すべき鋼構造物と鉄筋コンクリート構造物の軸方向ひずみ
2. 鉄筋コンクリート構造物の施工時伝達荷重
3. STAAD.Pro を使用した仮設構造物の解析事例
4. STAAD.Pro の便利機能

株式会社 Neutral Design 代表取締役社長 熊谷 正樹 様

## 理論なき設計者の恐ろしさ～配管動解析理論の意義～

AutoPIPE の設計解析結果を吟味せずにそのまま設計依頼者に提出しているケースが報告されてきています。特に、依頼者からの指摘で設計解析結果を見直しても立ちすくむだけで、解析理論に基づいた説明ができない技術者の存在が大きな課題です。本来は、設計解析の根底を流れている解析理論を習得してから動的解析に立ち向かうべきですが、日常業務で多忙な設計者の中には「振動工学」等の文献の読む時間が確保できない人が多い状況です。設計者の皆様は、入力条件や出力された解析結果の工学的意味を振動工学理論に基づいた議論ができることを期待されています。

今回の講演では、静的荷重および動的荷重の分類を示して固有値解析と1質点系モデルの各理論の導入部分を紹介し理論武装ができるきっかけを目指します。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 科学システムサポートチーム 本橋賀津彦

質疑応答

17:00 - 17:10